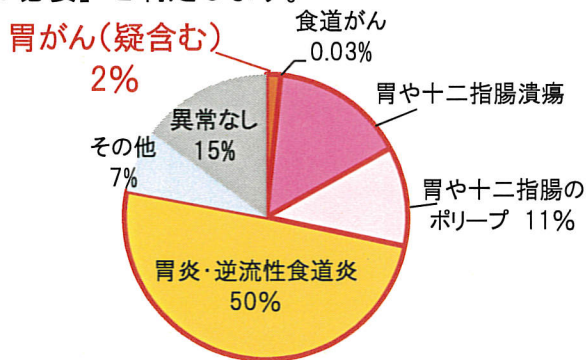


胃がん検診で要精密検査になったら 必ず精密検査を受けましょう！

「胃がん検診(バリウムの検査)で要精密検査になった」ということは、「バリウムが胃の表面を映し出している画像から、胃がんや他の病変の疑いがある」ということ。胃がんは、胃潰瘍(あるいはその痕跡)、ポリープ、胃炎など、普通に見られる胃の病気とよく似た形をしている場合があります。胃がん検診では、これらの良性の病気とがんが識別できない場合も「精密検査が必要」と判定します。



左は精密検査を受けた人の精密検査結果です。
約2%に胃がん。
胃潰瘍や胃炎など、治療が必要な病気も見つっています。



2014年当事業団での胃がん検診精密検査受診者(3,719人)の精密検査結果内訳

忘れてた！

聞いてみました！
よくある「精密検査を受けない理由」

ワケ

忙しい！

自覚症状がないからね～



胃がんは早期のうちには自覚症状がないことがほとんどです。ある程度進行した状態でなければはっきりとした症状は出てこないことが多く、症状を感じるようになった頃にはがんが進行している事も多いのです。

前も要精密検査で検査を受けたけど、異常なかったから…



前回は異常なかったから今回も異常なしとは限りません。検診はあくまで「疑い」なので、結果が出るまできちんと受診しましょう。また、胃の変形が強かったり、潰瘍の治った痕が毎年X線検査で「要精密検査」となることがあります。そのような場合には、集団検診に向かないケースがありますので、かかりつけの専門医を決めて、定期的の内視鏡検査を受けられることをお勧めします。

内視鏡検査が不安・・・



最近の内視鏡は以前と比べて細くなり(直径8～9mm)、断然飲みやすくなっています。鼻から入れる「経鼻内視鏡」は経口に比べて細く(直径5～6mm)、嘔吐反射が起きにくく、経鼻で行なうことのできる医療機関も増えています。希望により鎮静剤(静脈麻酔)を使用する医療機関もあります。悩まず、先延ばしにせず、まずは医療機関へ相談してみてもいいでしょう。

精密検査って何をするの??

胃の精密検査は主にカメラを使った内視鏡検査です。

胃に内視鏡を入れて、粘膜を直接観察します。

◆検査の準備としては・・・

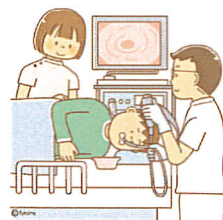
胃バリウム検査と同様に、検査の前日から食事や固形物等の制限が必要となります。水分の摂取は可能な場合もあります。

◆検査の際には・・・

胃の粘膜を見えやすくする薬や、内視鏡を飲む際の、苦痛を和らげるための喉の局所麻酔、胃の動きを抑える薬などを使用します。
また、鎮静剤や鎮痛剤の注射を用いることもあります。

◆検査時間は・・・

病変の有無や胃の状態で変わりますが、通常検査は10～20分で終了します。



※検査の詳細については受診される医療機関の説明をご確認ください。

※健康保険が使えますので、保険証と紹介状を医療機関にご持参ください。

胃がんは早期に発見すれば、 今や「治る」がんなのです。



現在、年に約13万人が胃がんと診断され、約5万人が亡くなっています。

なんと！男性は9人に1人、女性は18人に1人が胃がんにかかっている計算になるのです！

(2010年罹患リスク:「がんの統計'14公財」がん研究振興財団より)

検診で見つかる胃がんの約60～70%が早期胃がんです。

早期胃がんの5年生存率は90%以上！！

やっぱり早期発見・早期治療が肝心です。

まとめ

せっかく受けた検診は、結果を出してこそ意味があるのです。
大きな安心のためにも精密検査は必ず受けて、不要な心配をなくしましょう。

